

平成30年度 京都市立大江高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（最終評価）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>知情意体の調和のとれた発達を図り、時代の変化に主体的に対応できる、日本や地域社会の未来を担う人間を育成する。</p> <p>1 確かな学力【知】 知識や技能の基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ意欲と課題解決能力を育てる。</p> <p>2 豊かな情操【情】 徳性を高め、豊かな感性や情操を培うとともにボランティア精神を養う。</p> <p>3 強い意志【意】 自らの進路や新しい社会を切り拓く強い意志とチャレンジ精神を養う。</p> <p>4 健康でたくましい心身【体】 自他の生命を大切に、心身ともに健康でたくましく生きる力を育てる。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 系統的かつ計画的に進路指導を行い、就職内定率100%（約90%が地元企業）、国立大学1名合格につながった。</p> <p>(2) 京都フロンティア校（地域創生推進校）としての取組は多岐にわたって取り組むことができた。立案・運営する活動、活性化策を考える活動や調査・研究を通して、生徒たちの研究する力や対応力などの向上も見られ、高い学習効果につながった。</p> <p>(3) 様々な学力層の生徒が混在する中で、授業の進め方や教材を工夫し、表現活動、体験学習や校外学習等を取り入れることにより、多面的な学びを提供するとともに、基礎力補習等を実施することにより、丁寧に学習指導を行うことができた。また、小テスト等を定期的に行い幅広く評価することで、基礎基本の徹底を目指した。</p> <p>(4) 地歴公民科及び商業科の指導により福知山公立大主催「田舎力甲子園」、全国簿記コンクール、全国ワープロ競技大会、英語スピーチコンテスト等において生徒たちが活躍した。</p> <p>(5) 学校改革に向けて会議を重ねる中で、核となる方向性を決定することができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 学校改革に向けての取組の過程を踏まえ、方向性を今後更に具体化させる必要がある。同時に、京都フロンティア校（地域創生推進校）としての取組の成果を教育課程に位置付けることにより、更に定着・発展させる必要がある。</p> <p>(2) 学力向上の実現には課題が残っており、体系的な学び直しの手立てを検討する必要がある。</p> <p>(3) マナーアップを目指し、通学・学校生活での指導に取り組んだが、十分な成果につながっていない。学校生活では、学期が進行するにつれて少しずつ落ち着きが出てきたが、身だしなみや携帯端末の指導については課題が残った。</p> <p>(4) 広報活動や中学校との連携を積極的に行ったが、志願者増にはつながらなかった。本校の魅力を伝える手段について新たな一手を考える必要がある。また、教職員全体で組織的な対応を行う必要がある。</p>	<p>1 社会人基礎力を身につけるために必要なマナーアップを3つの視点からさらに推進し、将来地域を担う人材の育成につなげる。</p> <p>(1) 通学上のマナーアップ 公共交通機関での乗車マナーの向上及び通学路でのマナーアップによって、社会の一員としての規範意識を高める。</p> <p>(2) 校内でのマナーアップ あいさつの励行、携帯電話の使用、ゴミ・環境問題など、校内でのマナーアップに努め、安心・安全で清潔な学校環境づくりに取り組む。</p> <p>(3) 授業のマナーアップ 積極的な授業態度や家庭学習の習慣化により、学び姿勢の育成と基礎学力を向上させる。</p> <p>2 「生徒を伸ばす学校づくり」を強化する。 「教え方改革」を実践することにより、きめ細かく粘り強い指導を行うとともに、個に応じた学力の向上を図り、全生徒が「第1希望の進路が実現でき、本校に入學して良かった」と実感できるように努める。また、家庭との連携や地域との連携により、学校・家庭・地域の三者で生徒を育てる。</p> <p>3 学校改革と地方創生教育による特色化をさらに推進するとともに、学科改編を実施する。 平成27年度から推進してきた地方創生教育をより体系的・効果的に推進し、様々な取組を教育課程に位置付けることにより、効果のある取組を継続的に行うようにする。また、将来に向けた学校改革を具体化し、学科改編を円滑に実施できるようにする。</p> <p>4 安心・安全な学校環境の構築を進める。 いじめ防止の取組、防災教育・交通安全教育、環境美化を推進し、安心・安全な学校環境を構築する。</p> <p>5 働き方改革の推進 業務改善、教員の負担軽減対策を講じることにより働き方改革を推進し、業務の効率化を図るとともに複雑化・多様化する課題に的確に対応できる組織づくりを行う。</p> <p>6 戦略的な広報活動の展開 ホームページのリニューアルやSNSを活用することで本校の魅力を戦略的に発信する。</p> <p>7 部活動のあり方の検討 部活動のあり方を検討し、学校改革の特色化につなげる。</p>

評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
組織運営	地域創生教育による特色化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■学校・地域経営戦略会議により、学校改革案(学科改編他)について詳細を検討し、学科の特色をはじめ教育課程も含めた具体的な改編案を作成する。 ■京都フロンティア校（地域創生推進校）の指定を受け、過去3年間に取り組んだ地域創生教育をより体系的・効果的なものに整理し、地域の活性化につながる学習内容を充実させることで地域の未来を担う生徒を育てる。 ■本校生徒の実態に応じた「教え方改革」に取り組む。とりわけ学校設定科目を中心にICTや映像コンテンツを積極的に活用し、アクティブラーニングや体験活動の要素を取り入れた、本校独自の魅力ある授業の構築を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■学校改革に向けて分野別にワーキンググループによる検討を行い、前年度までに定められた方向性を具体化する作業を始めることができた。今後、教育課程への位置付けを目指し、さらに具体的な検討・準備に移る。
			B	<ul style="list-style-type: none"> ■前年度までに引き続き、京都フロンティア校（地域創生推進校）として充実した取組を行うことができた。立案・運営する活動、活性化策を考える調査・研究を通して、主体的な学習に向かう姿勢を身に付ける生徒も見られ、高い学習効果につながった。一方で、各学科や教科の独自の取組を教育課程に位置付ける必要がある。
			B	<ul style="list-style-type: none"> ■在校生の実態を踏まえ中学校との連携を積極的に行うことができたが、志願者増にはつながらなかった。中学生の志願に結び付く広報について検討し、教職員全体で対応する必要がある。
	戦略的な広報活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ■広報紙発行、メディアリリース、ホームページの更新等を積極的に行う。ホームページのリニューアルやSNSを活用することで本校の魅力を戦略的に発信する。 ■各種説明会やオープンスクール等の内容を充実させることで、中学生・保護者・地域の本校への理解を深める。とりわけ中学校での出前授業や体験授業を充実させる。 	B	

学習指導 進路指導	「生徒を伸ばす学校づくり」の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒一人一人の能力・適性・特性に応じた教材や授業方法を工夫し、ICTや映像コンテンツを積極的に活用することで、誰もが分かる授業を展開する。 ■地域との連携を通じて、本校独自の地域創生教育で地域への愛着や自己有用感の涵養につなげる。 ■学年部と教科担当の連携を密にし、個々に応じた丁寧な指導を行う。特にセカンド・ラーニング事業により、学習に課題を抱えている生徒に対しては補習等の指導を粘り強く行う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ■様々な学力層の生徒が混在する中で、情報機器を活用した授業研究等を行うなど、授業力の向上を目指した取組を行った。各教科においては授業の進め方や教材などを工夫したり、表現活動、体験学習や校外学習を取り入れるなど、生徒の主体性を引き出す実践を行った。 ■セカンドラーニングを活用するなど、教務部、学年部、教科が連携して取り組み、丁寧に指導することができた。また、授業のみならず、課題や小テストを定期的に行い、幅広く評価することで、基礎基本の徹底を目指した。しかしながら、全体的な学力向上の実現には課題が残っており、体系的な学び直しの手立てを検討しなければならない。 ■専門的な知識・技能を高める指導により、昨年度までに引き続いて全国簿記コンクール、全国ワープロ競技大会、スピーチコンテスト等において優秀な成績を収めることができた。 ■本校としての進路指導のスタイルが確立されており、系統的かつ計画的な進路指導により、就職内定率100%（約80%が地元企業）を達成することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ■課題、小テスト、学習プリントに取り組みせたりすることで家庭学習と基礎基本の徹底を図り、確かな学力につなげる。 ■積極的な資格取得、図書館の利用促進、コンテスト・コンクールへの参加を奨励・指導することで、自己有用感の涵養につなげる。 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ■系統的な進路指導計画に基づいて、低学年から個別面談やガイダンス等によりきめ細かい指導を行うことで、積極的に進路を考え、行動に移す力をつける。 ■キャリア教育を充実させ、実践や体験から望ましい職業観・勤労観を育てる。 	B	B	
生徒指導	マナーアップ指導	<ul style="list-style-type: none"> ■通学上、授業、学校行事等を通じて、一貫したマナーアップの指導に取り組む。とりわけ「乗車マナー」、「あいさつ」、「身だしなみ」、「言葉遣い」、「携帯情報端末の使用」、「清掃活動」等の社会生活を送る上で必要な基本的なマナー・社会規範を全校体制で粘り強く指導する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ■マナーアップを目指し、通学・学校生活での指導に取り組み、乗車マナー等では苦情を受けることが減少した。学校生活では、特に年度初めは授業に向かう姿勢に課題を抱える生徒が見られたが、粘り強く指導を行った結果、学期が進行するにつれて落ち着きが出てきた。一方、身だしなみや携帯端末の指導を今後も継続して重点的に取り組む必要がある。 ■PTAや警察と連携した交通安全指導は計画通りだったが、より多くのPTAの方々に参加してもらう必要がある。地域の方々を巻き込んだ取組まではできておらず、今後の対応を検討しなければならない。 ■生徒会活動やボランティア活動については、地域と連携して積極的に取り組むことができ、生徒たちも地域の方々との関わりの中で学ぶことができた。一方、部活動の加入率が低くなり、新学科の設置に向けて部活動の在り方を検討する必要がある。
	安心・安全な学校の構築	<ul style="list-style-type: none"> ■教育活動全体を通して社会の一員としての生き方、生命の大切さ、交通安全について啓発する。また、地域、PTA、警察等とも連携した指導を行うことで、学校だけでなく、地域全体で生徒を育てる。 ■危険箇所等に対する迅速かつ適切な施設管理、また老朽化備品の廃棄及び備品整備を行うことで安心・安全な学校づくりを推進する。 	B	B	
	課外活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ■部活動への加入を奨励し、活性化を図る。とりわけ部活動のあり方を検討し、学校改革の特色化につなげる。 ■生徒会執行部を基軸として各委員会を機能させ、各種学校行事を主体的に運営し、成功につなげることで、生徒会活動を充実させる。 	B	B	
保健指導 環境整備	健康相談と要支援生徒に対する支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■健康診断と事後指導を徹底し、また保健だよりやスクールカウンセラーの情報提供を定期的に行うことで保健教育を充実させる。 ■要支援生徒に対してスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー、関係専門機関、関係分掌、保護者との連携を密にし、迅速かつ適切な対応を行う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ■健康診断の結果、病院での受診が必要である生徒に個別の声掛けを継続したが、完全受診には至らなかった。保健だよりを毎月発行し、健康管理に対する啓発を行うことができた。 ■要支援生徒に対する支援は多様なケースがあり、支援方法が多岐にわたった。校内的にはSSWと連携しつつ、早めに支援につなげることができた事例もあった。今後、外部機関との連携を更に進める必要がある。 ■危険箇所の整備については、衛生委員会とも連携し、計画的に整備することができた。
	教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■学校予算の効果的な配分・執行を行うことで、効果的な教育活動につなげる。 ■清掃活動をはじめとする教育活動の中で環境整備の意識を啓発する。 	A	A	
学校関係者評価委員会による 評価	<ul style="list-style-type: none"> ■地域とともに地域活性化に向けた取組が進められている。学科改編に向けて、地域創生に資する取組を地域と連携しながら具体的に進めてもらいたい。 ■多様な生徒が入学している中で、生徒の実態に応じたきめ細かな指導が展開されている。学校評価アンケートでは、進路指導等と比較すると生徒指導面で生徒からの評価に課題が見られるので、更に丁寧な指導を行うことで、より満足度の高い学校づくりが目標とする。 ■就職内定率100%を達成するなど、個に応じたきめ細かな進路指導が展開されている。今後も生徒の進路希望に応じた取組を継続してもらいたい。 ■部活動加入率が低い実態がある。家庭の状況等、部活動に集中できない環境にある生徒がいることは理解できる一方において、新学科設置に向けて、生徒が自主性を高める活動が少しでも増えれば生徒の積極性を養成することにつながる。 				
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■学科改編を控え、従来本校で成果を上げてきた取組を継続発展させるとともに、新たな取組を具体化した上で教育課程に位置付ける作業を早急に行う。 ■基礎学力の定着を図るとともにマナーアップを目指し、生徒が充実した高校生活を送っていることを実感できる環境づくりに努める。 ■新学科設置の理念が中学生に充分に通じる広報を行い、目的意識を持って地域創生科に入学する生徒の増加を目指す。 				